

営農情報（作況情報：5月15日現在）

令和5年5月18日

第13号

【秋まき小麦（きたほなみ）】

○管内作況値

地域名	草丈 cm	茎数 本/m ²	遅速 +-	備 考
管内平均 (管内作況値)	42.9	912	+1	5月上旬の好天により、生育が進みました。 茎数によっては倒伏の可能性がある ので下記内容を参考に植物成長調整剤の 施用を検討しましょう。
普及センター本所 調査値 (平年)	40.5 (34.4)	1,201 (1,608)	+3	

○各地区定点調査結果

地域名	草丈 cm	茎数 本/m ²
光珠内	45.8	832
岩 峰	44.5	1,152
上美唄	38.5	752

○その他定点調査結果

地域名	草丈 cm	茎数 本/m ²
茎数多 (中小屋)	40.0	1,440
茎数少 (豊葎)	45.7	619

依然として過繁茂傾向にある圃場が確認されており、倒伏が懸念される場合には植物成長調整剤の散布を検討して下さい。

【今後使用可能な植物成長調整剤】

薬 剤 名	使用回数	使用時期	反 当 使用量	散布水量
サイコセルPRO (茎桿伸長抑制)	2回※	出穂前20～10日前 小麦草丈40～60cm	200～300ml	100L/10a
カルタイムフロアブル (茎桿伸長抑制)	1回	止葉期～出穂始期	150～200ml	100L/10a
エスレル10 (節間伸長抑制)	1回	止葉期～出穂始期	300～500倍	100L/10a
			75～125倍	25L/10a

※サイコセルPROの使用回数は幼穂形成期に1回以内、幼穂形成期後1回以内

《植物成長調整剤の使用目安》

「サイコセルPRO」

・ 止葉期時点で有効茎数(太い茎)が1,000本/m²を超えている場合

※草丈40cm時点で有効茎数が900本/m²を超えると倒伏のリスクが高まります。

「カルタイムフロアブル」「エスレル10」

・ 出穂前後の時点で有効茎数が700本/m²を超えている場合

◎田植えや大豆播種などの作業競合を加味して薬剤の選定を行いましょう。

《次ページへ続く》

適期を逃さず止葉期追肥を行いましょう！

～秋まき小麦の止葉期追肥について～

- ・ 止葉期は平年で5月25日頃の見込みとなっております。
- ・ 追肥の実施適期は止葉期(5月22～26日)となります。
- ・ 施用量は窒素で10a当たり4kgを基準とし、地力等を加味して施用量の増減を検討しましょう。

「赤さび病」の予防防除を実施しましょう！

近年、「赤さび病」の発生が多く確認されており、罹病によって葉の光合成能力が低下することで登熟不良となり、細麦となる事例が確認されています。

○赤さび病に効果のある薬剤

薬 剤 名	使用回数	使用時期	処理濃度	散布液量 (L/10a)
ミリオネアフロアブル	2回以内	止葉期～ 収穫7日前	4000～8000倍	50～150※
イントレックスフロアブル	3回以内		2000倍	60～150※

※薬剤効果を十分に発揮させる為、散布液量は100L/10a以上を推奨します。

昨年赤さび病発生が確認された圃場は必ず予防防除を実施しましょう！

JAみねのぶ営農推進協議会
TEL 0126-67-2334 FAX 0126-67-2803